

講座「地図帳で調べ、発見する社会資本」

寺本潔 先生

1 目的

- ・ 身近な県レベルから国土レベルの地域に多くの社会資本（公共建造物）が造られている事実に気付く。
- ・ 地図帳に掲載された地図を判読する力を身に付ける。
- ・ これから造る社会資本への夢を地図の上で育む。

2 方法

愛知県周辺の図を地図帳で調べる。河川や湾、山地に着目し、公共建造物の在処を探させることで、地図帳の活用も図っていく。

3 背景

これまで社会科でしか地図帳を活用しなかったが、社会資本に着目させることで総合的学習においても扱うことができる。児童生徒にとって自分の県にどのような社会資本がどれくらい存在するかについて視覚的に把握できる経験は、ふるさと意識の高揚にとっても大切であり、地域の開発に社会資本が寄与していることを改めて意識できる効果が期待できよう。

4 教材

児童生徒用の検定地図帳、トレーシングペーパー、日本の白地図

5 進め方

- ・ 愛知県の地図を例に進める。
- ・ 伊勢湾にある埋め立て地の海岸線（直線部）に着目させる。「自然の海岸ではなく、広い埋め立て地に様々な施設もあり、貿易に役立っていることに気付かせる。」
- ・ 灯台や発電所の地図記号にも着目させる。
- ・ 「藤前干潟」も扱い、環境を守りながら、同時に海岸が社会資本の立地に重要な場所であることを扱う。
- ・ 県内の主要4河川（豊川、矢作川、庄内川、木曾川）に沿って「指旅行」させる。
- ・ 河川の筋を横切る道路（高速道路）、国道1号線を確認させ、両者が交差する地点に赤丸を付けさせる。赤丸を付けたポイントには大きな橋梁が建設されていることを予想させる。
- ・ 山地にも視野を広げ、ダムやトンネルの設置の必要性に気付かせる。
- ・ 「もし、ここに道路が通っていなかったら、この地方はどうだったのだろうか？」を1例あげて考えさせる。
- ・ 伊勢湾の周囲に通っている高速道路に着目させ、伊良湖水道に橋を架けて大きな道路を通せないか考える。
- ・ 静岡県由比海岸付近の道路を指し、大規模地裏災害に対してどのような対策が必要か考えてみる。

- ・ 日本の白地図を取出し、高速道路や鉄道の設置が足りない地域を捜し出す。「未来の日本の交通路」と題して、白地図に未来の道路網を描かせる。

6 対象・構成

学年: 小3～6年、中学1、2年 科目: 社会、総合学習、理科の一部 技能: 地図を読み取る力、社会資本についてのイメージ形成、力学的構造物の実際 学習時間: 30分
対象人数: 40人 学習場所: 屋内、校庭、身近な地域 キーワード: 伊勢湾、高速道路、新幹線、灯台、堤防、埋め立て地、防災

7 伊勢湾周辺の学校用地図（帝国書院版）



[帝国書院版]